伊賀別筆

Iga Beppitsu

漫才無宿 御意見無用

伊賀百筆 付録雑誌 第1号

謎の怪人 雄鶏屋ほんだわら（おんどりや） 責任編集

秘 パイロット版

創刊兼終刊号

耳寄りなお知らせ　この付録雑誌には「手前どもはなにも考えさせていただかないことにさせていただいております」「手前どもはできるだけ働かさせていただかないようにさせていただいております」という決めぜりふでおなじみの名張市役所のみなさんが「なばりしは　やくざに　やさしい　まちづくり」「おやくしょは　みうちに　やさしい　しみんに　きつい」と名張市立名張小学校のよい子たちからわかち書きでおちょくられつつも謎の怪人雄鶏屋ほんだわら（匿名希望）に「おんどれやあほんだらおんどれやあほんだらおんどれやあほんだら」と叱り飛ばされる爆笑漫才が掲載されています。どうにかしてるぜまったく。

戻ってまいりました

やあ。伊賀地域十八万人のすっとこどっこいのみなさん。二年間のご無沙汰でした。お元気でいらっしゃいましたか。結構結構。あほでもかすでも元気が一番。まことおめでたいことに存じます。さて、思い起こせば三重県の震災がれき受け入れ問題に端を発し、二〇一三年秋十月に発行された地域雑誌「伊賀百筆」第二十三号の誌面において、

「こんにちはッ。県民に腐れきんたまを押しつける男ッ。三重県知事の鈴木えーけーでございますッ。えーけーえーけー僕えーけー。けつのまわりはくそだらけー。わはわはわはわはー。わはわはわはわはー。早く国会議員になりたあいッ」

とか、

「こんにちはッ。手前ども伊賀南部環境衛生組合ののーたりん一同は三重県知事さんの腐れきんたまを地域住民のみなさんおひとりおひとりのお顔にねたねたねたねたにちゃにちゃにちゃにちゃにじくらさしていただかさしてくれやさしてもらわさしてよいやさのよいやさッ。よいやさのよいやさッ」

とか、そげなこと書いたか書かなかったか、いまとなってはとてもあいまいな気もするんですけど、罰当たりな漫才でみなさんの大喝采ば頂戴した手前が戻ってまいりましたばい。みなさんの熱烈なるご要望に雄々しくお応えして、めでたくカムバックば果たしましたですばい。しかも、「伊賀百筆」本誌ではなく、付録雑誌「伊賀別筆」を仕立てての華麗なるカムバックどすのえ。十八万伊賀地域住民のみなさん。きつうきつう堪忍どっせ。

（雄鶏屋ほんだわら）

僕の図書館戦争完結篇

雄鶏屋ほんだわら

憤怒という名の大罪

「こんにちはッ」
「そのパターンまだやりますのか」
「お経は読んでも乱歩は読まぬッ」
「なんですねんそれ」
「腹が張っても屁はこかぬッ」
「知りませんがな」
「三重県名張市立図書館初代館長の高野香洋でございますッ」
「いったいどなたですねん」
「こんにちはッ」
「だいたいこんなとこに実名出すのはまずいのとちがいますか」
「教育やくざ三重県教職員組合名賀支部のほうから来た者ではない男ッ」
「またややこしい話ですな」
「元名張市教育長の梅田馨でございますッ」
「実名はあかんゆうてますがな」
「こんにちはッ」
「まだつづくんですか」
「多少のお時間をいただければ西暦を和暦に脳内変換できる男ッ」
「意味わかりませんけど」
「ただし昭和にかぎるッ」
「勝手に限定されましても」
「前名張市教育長の手島新蔵でございますッ」
「ええかげんにしときませんか」
「なにかご不満でもおありですか」
「実名を出して人の悪口ゆうのはいかがなものか思いますけど」
「君の耳は節穴なんですか」
「節穴はふつう目ェですけど」
「僕はこれまで名張市立図書館のためにご尽力いただいた公務員ＯＢのかたがたに感謝を捧げるべくですね」
「そもそもそうですからね」
「そもそもとおっしゃいますと」
「公務員ＯＢのかたがたを話題にするとか君の話はそもそも古いんです」
「それはたしかにそうですね」
「もっと前向きに名張市の将来を見据えた話ができませんか」
「こんにちはッ」
「未来を展望してください未来を」
「二〇一八年の春には名張市長になる男ッ。三重県議会議員の中森博文でございますッ」
「誰が市長選挙を展望してくれと頼みました」
「比例代表は自由民主党とお書きください」
「市長選挙に比例代表は関係ありませんがな」
「日本共産党でも全然大丈夫です」
「いったいなにが大丈夫なんですか」